

# 大学生の成長を捉えるためのルーブリックにおける成長指標と 課外活動・地域活動の関連

齋藤 信 (鈴鹿大学)

キーワード：大学生，ルーブリック，課外活動・地域活動

## 問題と目的

本発表では、大学生の成長について検討する。四日市大学では、大学生の成長を捉えるための測定として、四日市大学成長スケール 2016 年度作成版を実施している。四日市大学成長スケール 2016 年度作成版は、ルーブリック評価の手法を基軸としている。本発表では、ルーブリック評価の手法による大学生の成長の規準・基準としての指標（成長指標）と「課外活動 地域活動」（委員会やボランティア活動，地域貢献活動）の関連について検討することを目的とする。

## 方 法

### 参加者と実施時期

参加者は、四日市大学の3学部（経済学部・環境情報学部・総合政策学部）に所属する、0年生（入学時点）から4年生（卒業時点）の5学年で、合計818名であった。実施時期は、2017年12月から2018年5月までであった。

### 測定

四日市大学成長スケール 2016 年度作成版。①基本情報「課外活動 地域活動」については、「あり」「なし」でたずねた。②9個の成長指標と各成長指標4段階（Step 1, Step 2, Step 3, Step 4）から成る成長指標ルーブリック。

### 調査手続き

①学生による調査票回答（学生の自己評価）。②調査票に基づく学生と教員の面談（評価の相互確認と最終決定）

## 結 果

前述の調査手続きを経た、参加者の「課外活動 地域活動」における、成長指標ルーブリックの分布は、Table 1の通りであった。

1. 「課外活動 地域活動」が「あり」の学生は125名(15.3%)、「なし」の学生は693名(84.7%)であった。

2. Wilcoxonの順位和検定によると、9個すべての成長指標ルーブリックにおいて、「課外活動 地域活動」が「あり」の学生の方が、「なし」の学生よりも高い順位の Step の割合が有意に高かった。

## 考 察

1. 「課外活動 地域活動」が「あり」の学生の方が、「なし」の学生よりも人数が少なかった。ここから、参加者において「課外活動 地域活動」は、取り組んでいる学生が少ない活動であることがわかる。

2. 9個すべての成長指標ルーブリックにおいて「課外活動 地域活動」が「あり」の学生の方が、「なし」の学生よりも高い順位の Step の割合が有意に高かった。ここから、大学生生活で「課外活動 地域活動」に取り組んでいる学生の方が、取り組んでいない学生よりも、成長の実感が得られていることがわかる。

以上より、「課外活動 地域活動」（委員会やボランティア活動，地域貢献活動）は、取り組んでいる学生が少ないが、学生の成長に幅広く寄与する活動であることが示された。ここから学生の成長の実感を高めるためには、これらの活動への参加を促すことが有効であると思われる。その一方で各学生の志向性（好みや向き不向き）も十分に考慮されるべきと考えられる。

Table 1 課外活動・地域活動と成長指標

成長指標	活動あり (N=125)	活動なし (N=693)	W値
	順位平均値		
目標	449.84	402.22	48354.50*
主体性	468.33	398.89	50666.00**
向上心	462.62	399.92	49953.00**
知的関心	457.69	400.81	49336.00**
地域	572.01	380.19	63626.50**
情報	475.86	397.53	51608.00**
コミュ	477.80	397.18	51850.00**
社会規範	447.24	402.69	48029.50*
役割責任	474.43	397.79	51428.50**

注) \*\*p<.01, \*p<.05, Wilcoxonの順位和検定。